

Q：社会科の板書の仕方がよくわかりません。基本的な板書の方法を教えてください。

A：板書により児童は、1時間の授業の流れを理解したり、学習内容を整理したり、考えを深めたりすることができるなど、授業においては大変有効なツールです。そのため、板書は、学習内容が整理され、1時間の授業の流れが児童によくわかるように構造的にまとめられている必要があります。

板書は、子どもの反応を予測し、それらの発言内容を黒板のどこに、どのように位置付けたらよいのかを事前に考えておくことが重要になってきます。これを、板書計画といいます。板書計画は、社会科の授業を行う上でとても重要となる作業です。授業が始まってからその場で考えるのではなく、必ず事前に行うようにしてください。

教科により異なりますが、社会科の板書は通常、教科書に合わせて横書きで行います。項目については、授業場面に応じて変わりますが、基本的に「単元（題材）名」「めあて（学習問題）」「資料」「予想」「調べたこと」「考えたこと」「まとめ」の流れで構成されることが多いようです。

### <板書のポイント>

#### (1) 板書の基礎・基本

- 本時の「学習のめあて」を必ず書く。
- 中心資料を、必ず板書に位置付ける。
- 色チョークの使い方を決めて、子どもに知らせておく。  
例えば、「白色：資料から読みとった事実や解釈、子どもから出された考えや意見の要約など」、「黄色：集約した意見や考え、まとめ」、「赤色：重要な用語」
- 線や矢印の使い方・方向などに留意する。

#### (2) 板書の基本パターン

- 中心資料の比較（時代差・地域差など）を中心に、板書を構成するパターン
- 資料や取り上げた事実などを関連付けながら板書を構成するパターン
- 共通点や相違点を設けて個々の事実を整理したり、全体からどのようなことが読み取れるのかを考えながら板書を構成するパターン

### <板書例>

3年生 単元名「人々のしごととわたしたちの暮らし」まとめの授業

販売店（スーパーマーケット、近所の商店街、コンビニ、直売所）の工夫や努力について、調べたことを発表し、それぞれの販売店が様々な工夫や努力をしていることについて理解する学習である。この板書例は、学習内容について整理され、児童によくわかるように構造的にまとめられている。

